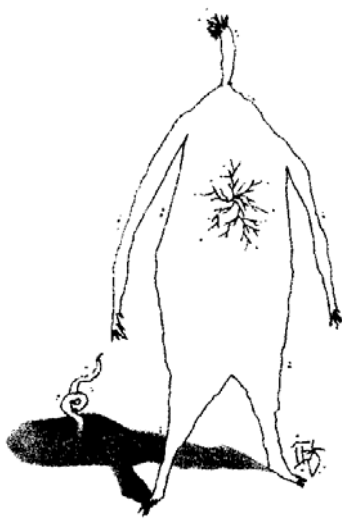


ウイルス

第2編1章

アダムの墮落と反逆で人類全体は呪いを受け、
その本来の状態から腐敗してしまった。：原罪論



私たちは次の二つの知識を受け入れる必要があります。
第一、私たちの本性は徹底して墮落し、腐敗してしまっている
ので神によって有罪判決を受けていること。そして第二に、
この腐敗した本性は、燃え上がる溶鉱炉の火のように絶え間なく
他の罪を生み出しているという事実です。原罪とは義の欠乏だけ
を意味しているのではなく悪の生産を意味しているのです。

ウイルス（virus）はラテン語で毒という意味を持った言葉で寄生性病原体のことを言っています。ウイルスは自分を増殖させることができる細胞（ウイルスの寄生対象となる生物）の核の内に入り込んで、その本来の代謝メカニズムを破壊し、その中で大量のウイルスを合成し続けます。ウイルスの感染によって引き起こる疾病はたいへん多くあります。風邪を始めに鼻炎、肺炎、小児麻痺、髄膜炎、脳炎、結膜炎、肝炎など私たちがよく耳にするものばかりです。ところが残念なことにこれらのウイルスを完全に死滅させる薬はいまだに作り出されていないのです。

最近ではコンピューターウイルスというものが流行しています。コンピューターウイルスは顔の見えない犯人たちが作り出したソフトウェアのことを言います。そのウイルスは他のファイルやプログラムのうちに入り込んで行ってシステムやプログラムを破壊させるのです。このようなウイルスにコンピューターが感染させられることによって社会に重大な損害が生み出されています。

罪が私たち人間に働く様子はこのウイルスのそれとよく似ています。人間の本性のうち



に入り込んで、その本性を変質させ、自分に似た性質を再生産して、また各種の疾病と同じように数多くの罪を生産しているのです。人は生まれたときから罪というウイルスに感染しています。ですから罪を知らなければ、人を正しく理解することはできません。これからこの罪とは何であるかについて学ぶことにしましょう。

第1節 人は自分自身について正しく知らなければなりません。

私たちはみな自分自身について次の二つの知識を持つ必要があります。一つは神の創造のとき、人間が受けていた優れた性質についてのことです。もう一つはアダムの墮落によって腐敗した人間の性質につ

いてです。神は最初の人間を創造されたとき、その人間のうちに善に対する熱望と永遠の命に対する憧れを植え付けられました。しかし、人間は墮落によってそのすべてのものを失い、むしろ言葉では言い表せないほど醜悪で恥ずべき姿になってしまったのです。

ところで墮落した人々は悲惨な状況に自分がありながらも、生まれつき盲目的な自己愛が備わっているために、自分のうちには憎まれるに価するものは何も存在しないと信じ込む傾向がある。そして人は自分の自尊心を満足させてくれる魅力的な偽りの言葉を喜び、それを愛そうと傾向を骨の瑞まで持っています。すべての手柄を自分に返さないで神に返そうとするような、たいへん謙遜に見える人でさえその手柄をこっそりと奪って取って、結局自分がその愛と信頼の主人公になるようにするのです。

この世には人間性の優秀性を賛美する美しい言葉がたくさん飛び交っています。しかし、その言葉がどんなに私たちに自分を信じるようにと促し、自分に満足させようとしたとしても結局は人間に自己矛盾を引き起こさせるほかないのです。そのような人は自分自身を知ることによって何一つ益を受けることができないばかりか、かえって最悪の無知に導かれ、悲惨な滅びを味わうことになるのです。ですから私たちはどんなにそれらが自分にとって快い言葉であったとしてもそれを信じてはいけないのである。

そのため私たちは自分自身について次の二つの知識を同時に持つ必要があります。第一に、墮落以前の卓越した状態での人間についての知識です。このとき人間は明確な目的を持って神に創造されました。第二に、墮落以後の悲惨な状態での人間についての知識で

す。このときの人間は善を行うことのできるどんな願望も、どんな才能も失っている状態で、まさに無の状態といえます。このように第一の知識は私たちに人間の本来の義務が何であるかを教えてくれますし、第二の知識は私たちにはその義務を行うための能力が絶対に欠けていることを悟らせてくれるのです。

第2節 アダムの罪とその子孫との関係：アダムの罪で人間は創造されたときのその最初の性質を失ってしまい、全人類は腐敗させられてしまいました。

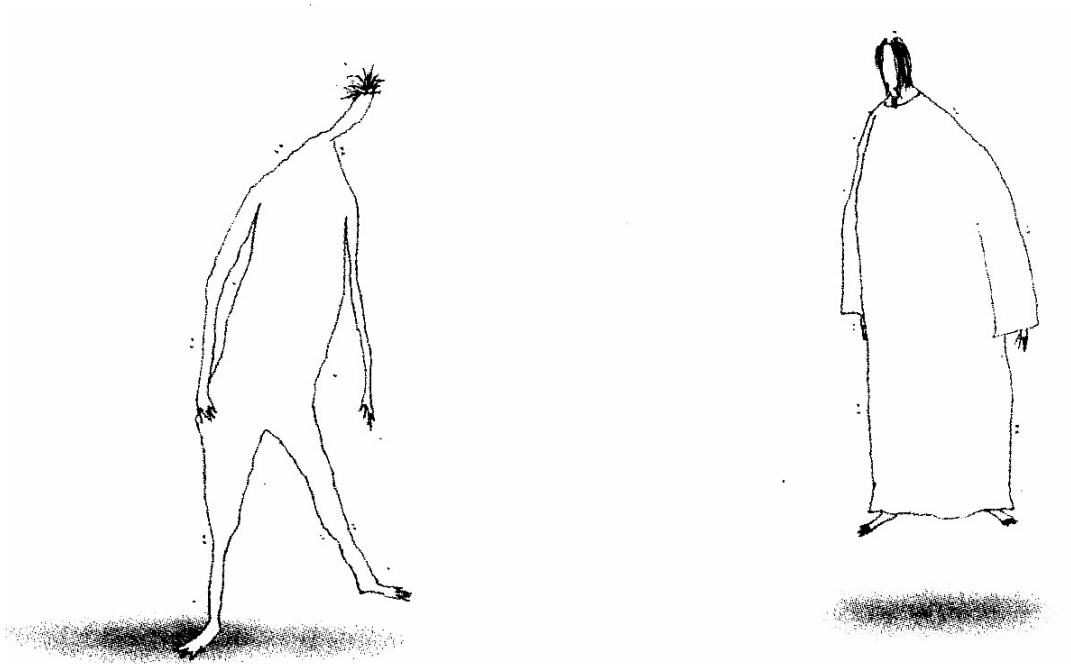
創世記3章はアダムの最初の罪を記録しています。ある人々はときどきつぎのように不平を言います。「神はなぜアダムの墮落を防ごうとされなかったのか」。このような問題については後でもう一度取り上げることになりますが、それは神の予定の神秘と関係していると言えます。

それでは、アダムはなぜそのような重大な失敗を犯してしまったのでしょうか。アウグスチヌスはその罪の原因を傲慢にあったと言っています。アダムが自分に与えられた地位に満足しないで、情欲によって傲慢となったからだと言う。しかし、罪の根はもっと深いものです。聖書は不従順がその墮落の始まりであったと指摘しています（ローマ 5：19）。それなら不従順の原因は何なのでしょう？それはアダムが神の御言葉を軽んじた点にあります。アダムが神の御言葉を軽んじるやいなや、彼は神に対する敬虔さを失いました。敬虔さを失うやいなや、彼はうそをつくようになりました。うそをつくようなるやいなや、彼に悪い欲望が生じて、その悪い欲望が、反逆と不従順を生み出したのです。

ですから神の御言葉に対する不忠実こそが不従順を生み出したのです。私たちのすべての情欲を抑制する最もよい手綱は、神の御言葉通りに生きることが私たちに与えられた最善の道であることを認め、神の愛を受け入れることが最高の幸福であると考えるところにあります。この二つの考えで武装するとき私たちは私たちの情欲をよく制御することができます。

そして罪はウイルスのように人間の最初の性質に浸透して働きました。人間の優れた最初の性質を変質させ、腐敗させたのです。人間を優れたものとしていたすばらしい知恵と聖と力と真実と義が破壊され、代わってその腐敗した本性のうちに無知、無気力と不潔と虚栄、不義など最も醜い悪と疾病が繁殖するようになったのです。

アダムのこの最初の罪を教父たちは「原罪」と呼びました。罪という言葉が簡単に説明すれば、墮落以前のたいへん善く、従順であった本性を人間はみな失ってしまったということ意味しています。そしてこの罪はアダムの子孫として生まれたすべての人間にそのままの形で遺伝されるのです（詩 51：5）。すべての人間は生まれたときから徹底してゆがんでおり、暗くされ、腐敗した性質をその通り受け継いでいるというのです。



この教えに対してペラギウス (Pelagius) のような人は真っ向から反対しました。どうして一人の人が犯した罪の責任を他の人にまで問うことができるだろうか？それはあまりにも不公平なことではないかというのです。しかし、聖書はアダムの罪が彼のすべての子孫にその通りに伝達されたとはっきりと証言しているのです(ローマ 5:12、エペソ 2:3、ヨハネ 3:6)。このような聖書の証言に対してペラギウスは罪の伝達は遺伝されるものではなく、模倣されて伝えられるものなのだと語りました。それならば、模倣しないことも可能だということになります。結局、彼はどんなに墮落していてもすべての人間は生まれつき、以前と同じように道徳的な力を持っていると主張するのです。これがペラギウスの教えた異端的主張の中心です。

しかし、もしアダムの罪が模倣によって伝えられたとすれば、イエス・キリストの義も私たちが模倣することによって与えられる恵みだということになるのでしょうか？聖書は明らかな表現で次のように教えています。「このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです」(ローマ 5:12)。またキリストの恵みによって義と命が回復されたと語っています(ローマ 5:17)。罪と死はアダムを通して人類に入り込み、キリストを通して癒され、義と命はアダムのために失われましたが、キリストによって回復されたと語っているのです(第一コリ 15:22)。

このように根から枝が生えるようにアダムから始まった腐敗は彼の子孫たちに続けて伝えられ、途絶えることなく受け継がれているのです(アダムと彼の子孫は契約によって結

びつけられているためにアダムの罪の責任と罪の汚染は彼の子孫にその通り伝えられているのです。それでアダムの罪の責任と同時に私たちの生まれつきの腐敗は私たちの責任にもなるのです。

しかし、罪の汚染は人間の肉体や靈魂のある本質に原因があるのではなく、神の予定から来るものなのです。アダム自身だけではなくすべての子孫たちのために受けた最初の性質は神の予定の中でそのように受け取られ、また失われてしまうようにと定められていたのです。それでは予定によって再生した父母が生んだ子供はどのような状態で生まれるのでしょうか？もちろん罪人として生まれます。子供たちは父母の靈的な再生から生まれるのではなく、肉的な性質から生まれるからです。

第3節 原罪と人間性との関係：原罪は本性ではなく、本性が腐敗したもので、人間性全体を腐敗させます。

原罪は私たちの本性が遺伝的に墮落し、腐敗しているということの意味ですが、その場合に私たちの靈魂のすべての部分がそのようになったということをも意味しています。罪は最初、私たちに神の有罪判決を受けるようにさせ、第二に聖書で肉の業（ガラテヤ5：19）と呼ばれているさまざまな行為を行うようにさせます。パウロが度々「罪」と呼んだものはそのようなもののことです。例をあげれば、姦淫、偶像崇拜、盗み、憎しみ、殺人、宴楽などです。また罪の実は罪であるとも言われています。

それで私たちは次の二つの事実を受け入れなければなりません。第一に、私たちの本性は徹底して墮落し、腐敗しており、従って神の有罪判決を受けているということです。そして第二に、この腐敗した本性は燃え盛る溶鉱炉の火のように他の罪を生産し続けていくという事実です。これは善に対しては人間は無能力ですが、悪に対してはとてつもない力を持っているということの意味しています。原罪を肉欲と表現するのもこのためです。

そして、罪は私たちの人間性全体を変質させてしまいました。ある一部分だけに入り込んで働いているのではなく、私たちの人間性全体を麻痺させ変質させて、だめにしているのです。ローマの信徒への手紙3章は私たちのそのような姿をよく表しています（1～20節）。ですから、パウロは私たちの本性の中の悪い部分だけを取り除きなさいと命令しているのではなく、心の底から靈的に新たにされなさいと要求しているのです（エフェソ4：23）。人間はちょうど暴雨に会ってずぶ濡れになった人のように頭から足まですべて罪に圧倒されて罪を免れている部分は唯一一つもないのです。そこで人（肉の思い）から出るすべてのものはみな罪とされるのです（ローマ8：6,7）。罪というウイルスに感染した人間は生まれながら腐敗した状態で誕生するのです（エフェソ2：3）。

むすび

人は罪というウイルスに感染しています。ですから墮落以前の優れた性質は全く失われてしまい、それとは全く違った醜く悪い性質に変わってしまったのです。アダムの原罪は彼のすべての子孫たちにもそっくりそのまま遺伝して、彼の罪は人間全体を腐敗させ、闇と変えました。墮落した人間には善を行おうとする能力を少しも残っておらず、悪を行う能力はとてつもなく大きく、際限なく生まれてくるのです。この悪質ウイルスを退治する「薬」は聖霊という病院で処方された新旧両約（良薬）聖書とイエスの流された血のほかにはありません。